

日時	2024年1月13日(土) 9:30 ~ 11:30 天候: 晴
場所	湿地、2階交流スペース
講座・活動名	<b>湿地モニタリング調査 &amp; 観察園全樹木調査 毎月第2土曜定例</b>
参加者	18名(うち子ども0名) 構成: 講師2名、(環境局0名) NTT西日本関西支店 6名、エコボラ 9名、事務局 1名
講師名	鈴木真裕(大公大)、北川ちえこ* (エコボラの場合氏名に*印をつける)
内容	生き物調査、データ入力、(報告書作成)
使用器材 資材・道具	(持参、借用等も含む) 調査用紙、ボード、バケツ、スコップ、鍬、一輪車、粗朶用の竹、ひも、はさみ
振り返り エコボラ通信に 掲載することが あります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗朶をつくるための、竹の枝がたくさんあり、よかった。枝打ちには鉋が便利であった。</li> <li>・できた粗朶を池の周りに固定するため、竹杭 20~30cm ぐらいの長さの棒があれば、粗朶をとめるのに使えるが、粗朶より高くなると危険なので、同じぐらいの高さで止める必要がある。隣同士の粗朶をとめるには、麻縄があればよいと思う。</li> <li>・西側のアケビのつるが湿地の内部にまで入り込んでいるので、粗朶の設置前に除去した。あわせて周囲の低木にからんでいたつるも取り除いた。</li> <li>・イグサを刈り取ったので、後日、コースターを試作してみる。</li> </ul> <p><b>全樹木調査の準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラミネートラベルの取り付け方法について、既存タッカーの有効性を確認した。幹に取り付ける場合は、園芸用ワイヤーを回して、ワイヤーの上から打ち付けるとよい。</li> <li>・硬い幹の場合、打ち付けた針が浮くので、上から軽くたたくハンマーがあればよい。</li> </ul>
事務局への 伝達事項 次回案内等	★2月は現状のままとし、3月第1週に水をいれて第2週の様子を見る予定 2月作業は、石組みの枯れ草とりを11時までとし、その後に樹木調査チームとコウホネ池調査チームに分かれて活動する。

スタッフ氏名	活動内容	参加者氏名	活動内容
木山正隆	粗朶づくり	NTTのみなさん	粗朶づくりと設置 6名
竹原秀樹	粗朶づくり	鈴木真裕	動物調査・水田Bの泥移植
渡辺喜代子	植物調査		
西田敏子	植物調査		
北川ちえこ	植物調査		
中谷憲一	昆虫調査		
忍喜博	粗朶づくりと設置		
芝崎美世子	水田B泥移植・アケビのつるとり		
田中伸二	粗朶づくり		
栴元慶子	アケビのつるとり、植物調査		

いずれかに○→(○)裏面に図面、写真等を添付した ( )裏面なし ( )詳細はファイルで提出

図面・写真等 添付面

日時	2024年1月13日(土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

### 湿地の状況 240106



No.71 エノキ前 20240106

No.70 エノキ前 20240106



### 湿地の状況 240113



北方向 20240113

南方向 20240113



## 粗朶の作成 240113



粗朶づくりの説明



材料の竹



約40本ほどの粗朶が完成



## 粗朶の設置 240113



固定用杭



## 湿地の生き物調査 240113



シャジクモ卵胞子が入っていると思われる水田Bの泥を入れた



シャジクモsp  
221001湿地完成前  
撮影 梶元慶子

## 湿地の生き物調査 240113



植物調査の様子



昆虫調査の様子

## 湿地の生き物調査 240113



タチスズメノヒエ



ヘビイチゴ



コメツブツメクサ



ヤハズエンドウ

## 湿地の生き物調査 240113



ヒメムカシヨモギ



テリミノイヌホオズキ

刈り取られたイグサは後日コースターをつくる予定



湿地内部に張り出していたアケビは取り除いた  
周囲の低木からんだものも取り除いた

## 湿地の生き物調査 240113



シンジュキノカワガ  
撮影 梶元慶子



ジョウビタキ♂  
撮影 中谷憲一



クビキリギス  
撮影 NTT井上文夫